

2023年度 第3四半期決算説明会 主な質疑応答

日時:2024年1月31日(水)15:30~16:20

全体

Q:通期業績予想(1/31)に対する上振れ余地は。

A:

- ・営業利益の上振れ余地としては、経費削減により10億円程度、為替が直近レートで推移した場合に10数億円の好転が考えられる。

Q:器具、低圧インバータ、産業向け半導体等の産業向けコンポーネントの今後の需要動向は。

A:

- ・器具の受注は、2Qから3Qが底で4Qは底這いが継続する見通し。2024年度は緩やかな回復を見込むが、本格的な回復は2024年度下期になるだろう。一方で受配電分野向けは引き続き堅調に推移する見通し。
- ・低圧インバータの受注は、国内は2Qが底で3Qから回復している。海外は、3Qは対2Qで減少し、全体では2Qから底這いが継続している。本格的な需要回復時期は器具同様に2024年度下期の見通し。
- ・産業向け半導体は、2024年度の上期までは需要の減少傾向が続くだろう。アプリケーションによってバラつきがあるが、全体としては、2024年度下期から回復見通し。

Q:来年度の業績見通しは。

A:

- ・器具や産業向け半導体など景気の影響を受けやすいシクリカル分野の需要動向は不透明ではあるものの、この分野の当社売上高に占める割合は25%程度だ。一方で、電動車向けパワー半導体、再エネ関連等の成長分野は60%を占める。成長分野の伸長でシクリカル分野の悪化影響をカバーすることで、全体としては増収増益を期待できるのではないかと。

エネルギー

Q:エネルギーマネジメントの増収について、変電システム分野の大口案件が増加したとのことだが、一過性なのか、今後も継続性があるか。

A:

- ・プラント設備案件の更新需要が好調で、電力向け、一般産業向け、鉄道向けでいずれも堅調に推移している。また、時期は流動的だが北米や中東で大きな投資の動きがあり、こうした海外案件の受注獲得により継続的な受注増を目指す。

Q:施設・電源システムにおいて特に海外のデータセンターや半導体メーカ向け案件が増加したとのことだが、地域はどこか。

A:

- ・東南アジアだ。とりわけ半導体メーカ向けは昨年度の受注が好調であり、それが今年度の売上増に寄与している。

Q:国内の複数の半導体工場建設プロジェクトに関わっていると聞いたが、更なる受注拡大が期待できるか。また、国内データセンターの大型投資の恩恵を受けるか。

A:

- ・国内は、熊本、中国地方、北海道で半導体工場新設の動きがあり、受変電機器を提案し、受注を獲得している。今後投資をしようとする顧客に対しては、事前に設計段階から協力することで、更なる受注拡大を目指し活動している。
- ・国内データセンターの投資増は、施設・電源システムや器具の需要増に繋がるとみている。

インダストリー

Q:オートメーションのプラント系の状況は。

A:

- ・プラント系の受注は好調。来年度は今年度よりも初期注残が多い状況でスタートを切れる見通し。

Q:低圧インバータの受注残の状況、規模感は。

A:

- ・顧客の要求納期に対応できなかった案件の受注残はほぼ解消した。コロナ前は1～1.5ヶ月の受注残だったが、顧客の納期不安による先納期案件の発注により2.5ヶ月程度となっている。

半導体

Q:産業向けパワー半導体の需要動向は。

A:

- ・産業向けは工作機械やサーボシステム向けが中国を中心に減少している一方、再エネ向けは堅調に推移している。

Q:電装向けパワー半導体(電動車・ガソリン車別)の3Q受注実績、4Q及び来期の見通しは。

A:

- ・3Qは、電装全体は対前年39%増、うち電動車は48%増、エンジン車は若干減少した。対2Qでは、電装全体は13%増、うち電動車は16%増。
- ・3Q累計は、電動車は対前年44%増。
- ・4Qは、電装全体は対前年10%程度増加する見通し。対3Qでは、電装全体は横ばいの見通しだが、電動車は為替影響、3Qへの先行発注影響、中国春節影響を除き、5～6%増の見通し。
- ・来期も自動車の電動化が進み、需要は増加する見通し。

Q:EVからハイブリッド(HV)への回帰が見られるが、売上構成や業績への影響はあるか。

A:

- ・現状では電動車の構成比に関する正確な数値がなく、顧客からの具体的な提案もないため、売上構成に大きな変動はないと見ている。HVが増加すればIGBTが増えるだろう。
- ・IGBT、SiCの生産体制を強化しており、EV、HVのどちらが増えても収益性に大きな変化はないと見ている。

Q:産業向け半導体の減少があつたにもかかわらず、半導体全体の3Q営業利益率は2Qと同レベルを維持した要因とその継続性は。

A:

- ・産業向け半導体の減少はあるものの、2Qに引き続き3Qもお客様に値上げをお願いし、収益性を維持することができた。
- ・毎年継続的な値上げは難しく、必要に応じてお客様と交渉することになる。

Q:産業向け半導体の稼働率低下の懸念はあるか。

A:

- ・電装・産業とも同じクリーンルームのため、産業の減少分を電装でカバーし、前工程(8インチ)はフル稼働となっている。

Q:パワー半導体の生産能力の来期見通しは。

A:

- ・IGBT8インチは、マレーシアで増産対応を継続しており、来期も生産能力は増加する見通し。
- ・SiCは、来年度2Qから売上貢献の見通しであり、計画線で推移している。

以 上